

令和6年度 第2回八雲町地域自立支援協議会 (R7.2.28)



「障がい者虐待」について



八雲町保健福祉課障がい者福祉係

係長 (社会福祉士) 岸田 春樹

1. 障がい者虐待について
2. 相談・通報先などについて
3. R5年度の北海道での虐待について
(北海道新聞より)
4. その他
5. おわりに・・・



1.障がい者虐待について

障害者虐待防止法

「障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律（障害者虐待防止法）」が、平成24年10月1日に施行されています。この法律は、障がいのある方の尊厳を守り、自立や社会参加の妨げとならないよう、虐待を禁止するとともに、その予防と早期発見のための取組や、障がいのある方を養護する人に対する支援措置を講じることなどが定められています。



障害者虐待防止法の対象となる 「障がい者」

身体・知的・精神障がいその他の心身の機能の障がいがある者であって、障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活・社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの

障がい者虐待の種類

1. 養護者による障がい者虐待
2. 障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待
3. 使用者による障がい者虐待

障がい者虐待の類型

類 型	内 容
身体的虐待	障がい者の身体に外傷が生じたり、若しくは生じるおそれのある暴行を加えること。または正当な理由なく障がい者の身体を拘束すること。
性的虐待	障がい者にわいせつな行為をしたり、または障がい者へわいせつな行為をさせたりすること。
心理的虐待	障がい者に対する著しい暴言、著しく拒絶的な対応その他、障がい者に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと。
放棄・放置 (ネグレクト)	障がい者を衰弱させるような著しい減食、または長時間の放置等、養護を著しく怠ること。
経済的虐待	障がい者の財産を不当に処分することその他、障がい者から不当に財産上の利益を得ること。

セルフネグレクト

支援が必要な状態でありながら、周りに対して援助を求めず、健康や安全を自ら損なうこと

◎ 客観的に見て支援が必要な「セルフネグレクト」の状態

- ・判断能力が低下している場合
- ・本人の健康状態に影響が出ている場合
- ・近隣との深刻なトラブルになっている場合

◎ 「セルフネグレクト」のサイン

- ・自身の生命を脅かすほどの行為・治療の放置（栄養不足、脱水症状など）
- ・危機的・非安全な生活環境（排水・配線設備の不備、冷暖房の不備など）
- ・住環境が極端に不衛生である（尿臭、悪臭、害虫など）
- ・不衛生な着衣状況など
- ・不適當な金銭・財産管理など

2.相談・通報先などについて

重要! 障がい者虐待の相談や通報先①

虐待を発見したり、虐待を受けた場合には、通報・届出を行ってください!! (すべての国民に通報する義務が定められています)

八雲地域	平日 8:30~17:15	保健福祉課障がい者福祉係 (シルバープラザ内)	0137-64-2111
	平日の夜間・休日	八雲町役場：宿日直室	0137-62-2111
熊石地域	平日 8:30~17:15	住民サービス課環境生活係 (熊石総合支所内)	01398-2-3111
	平日の夜間・休日	熊石総合支所：宿日直室	01398-2-3111

重要! 障がい者虐待の相談や通報先②

※使用者による虐待の場合、下記でも対応可能

北海道障がい者 権利擁護センター	平日 8：45～17：30	電話対応	011-231-8617
	休日・夜間	留守番電話での対応	

道では、本庁内に北海道障がい者権利擁護センターを設置し、使用者による虐待の通報や届出の受理のほか、市町村が行う虐待防止対策への支援、予約制による医師や弁護士による定期的専門相談などを行っています。

◎高齢者虐待の場合

八雲地域	平日・休日夜間 共通	保健福祉課包括支援係 (シルバープラザ内)	0137-65-5001 (※休日・夜間は八雲町役場 宿日直室へ転送されます。)
熊石地域	平日・休日夜間 共通	住民サービス課住民福祉係 (熊石総合支所内)	01398-2-2365

◎児童虐待の場合

八雲地域	平日8:30~17:15	子育て支援センター	0137-62-2573
	平日の夜間・休日	八雲町役場：宿日直室	0137-62-2111
熊石地域	平日8:30~17:15	住民サービス課環境生活係 (熊石総合支所内)	01398-2-3111
	平日の夜間・休日	熊石総合支所：宿日直室	01398-2-3111
八雲・熊石 地域共通	平日・休日夜間 共通	児童相談所 全国共通ダイヤル	189 (いちはやく)

八雲町の通報等の状況について

年 度	通報等件数
R3年度	6件
R4年度	0件
R5年度	0件
R6年度 (R7.2.1時点)	1件

※令和3年度の障がい者虐待の通報・相談の件数について

・通報等6件で、その内5件が虐待認定（5件の内訳：①養護者による障害者虐待が3件、②福祉施設従事者等による障害者虐待が2件、③使用者による障害者虐待が0件）

3.R5年度の北海道での 虐待について (北海道新聞より)



(別海町) 障害者支援施設 柏の実学園

(R5.8.9記事)

虐待の種類 障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待

虐待の種類 身体的虐待

概要

男性職員が男性入所者の居室ドアと廊下の手すりをひもで縛って出られないように拘束し、入所者がけがを負うまで計6時間以上にわたり部屋に閉じ込められていたという問題。入所者は2階の居室の窓から外に出ようと転落して顔面に切り傷を負って出血し、前歯が抜けるけがを負った。

施設は虐待行為として道に報告。男性職員は拘束した事実を認め、聞き取りに対し、「入所者が洗濯場を水浸しにするため、外に出られないようにした。」との趣旨の話をしている。

(恵庭市) 遠藤牧場

(R5.8.25記事)

虐待の種類 使用者による障がい者虐待

虐待の類型 経済的虐待

概要

住み込みで働いていた知的障がいのある60代男性3人が、賃金が支払われず、障害年金を横領される経済的虐待を受けた上、同市が虐待を把握したのに放置、隠ぺいをし、必要な調査や道への通知をしなかったとしている。牧場側と同市に対して、計約9,390万円の損害賠償を求める訴訟を札幌地裁に起こした。

牧場は議長を含め恵庭市議を20年間務めた者が経営し、妻らも携っていた。また、同市の障がい者支援団体の会長も務めていた。

(北斗市) 障害者支援施設 ねお・はろう

(R5.9.28記事)

虐待の種類 障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待

虐待の種類 身体的虐待

概要
30代男性職員が40代男性入所者の背中を蹴って突き飛ばし、顔面を切るけがを負わせたとし、函館中央署は傷害の疑いで逮捕した。
施設側が男性入所者のケガに気づき、同署へ届出を行った。防犯カメラの映像などから男性職員が浮上した。

(新ひだか町) 精神科病院 石井病院

(R5.10.6記事)

虐待の種類 ※令和4年12月に成立した精神保健福祉法の一部改正により、令和6年4月から新たに精神科病院における障害者虐待の都道府県への通報義務等が設けられる。

虐待の種類 身体的虐待

30代男性看護師が60代男性入院患者の腹を複数回殴るなどしてけがを負わせたとし、静内署は傷害の疑いで書類送検した。
同署によると男性看護師は「患者からの要望が多く、頭にきて暴力を振るった。」と容疑を認めているという。同病院は男性看護師を懲戒解雇した。

概 要

(帯広市) 知的障害者支援施設 帯広慈光学園

(R5.12.14記事)

虐待の種類 障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待

虐待の種類 身体的虐待

概要

(社会福祉法人真宗協会より) R5.10.3、屋外での活動の際、50代男性職員入所者が外に出ることを拒んだため、男性職員が殴ったり蹴ったりし、襟首をつかんで引きずるなどの暴行を加えた。

職員が虐待を行ったとの内部通報が同法人に寄せられ、防犯カメラの映像により判明。法人の聞き取り調査に対して「とんでもないことをしてしまった。」と暴行を認めている。

(むかわ町) 障害者支援施設

(社会福祉法人愛誠会)

(R5.12.28記事)

虐待の種類 障害者福祉施設従事者等による障がい者虐待

虐待の種類 性的虐待

概要

(社会福祉法人愛誠会より) R5年3月から10月にかけて、当時50代の男性職員が、知的障がいのある入所者の女性の体を触るなどのわいせつな行為を、当直の時間帯に繰り返されていた(11月に懲戒解雇)。

むかわ町は調査の結果、性的虐待と認定したうえで、12月26日、運営法人に対し再発防止と業務の改善を求めている。

4.その他



令和5年10月13日公開、映画「月」

オフィシャルサイト (<https://www.tsuki-cinema.com/>) より

解 説

実際の障害者殺傷事件を題材に、2017年に発表された辺見庸の小説「月」。

本作は、『新聞記者』『空白』を手掛けてきたスターサングの故・河村光庸プロデューサーが最も挑戦したかった原作だった。

それを映画化するという事は、この社会において、禁忌タブーとされる領域の奥深くへと大胆に踏み込むことだった……。

オファーを受けた石井監督は、「撮らなければならない映画だと覚悟を決めた」という。その信念のもと、原作を独自に再構成し、渾身の力と生々しい血肉の通った破格の表現としてスクリーンに叩きつける。

そして宮沢りえ、オダギリジョー、磯村勇斗、二階堂ふみといった第一級の俳優陣たちもまた、ただならぬ覚悟で参加した。本作は日本を代表する精鋭映画人たちによる、最も尖鋭的な総力をあげた戦いだといっても過言ではない。

もはや社会派だとか、ヒューマンドラマだとか、有り体の言葉では片づけられない。

なぜならこの作品が描いている本質は、社会が、そして個人が問題に対して“見て見ぬふり”をしてきた現実をつまびらかにしているからだ。本作が世に放たれる—それはすなわち、「映画」という刃が自分たちに向くということだ。覚悟しなければならない。そう、もう逃げられないことはわかっているから—。

令和5年10月13日公開、映画「月」

オフィシャルサイト (<https://www.tsuki-cinema.com/>) より

物 語

深い森の奥にある重度障害者施設。ここで新しく働くことになった堂島洋子（宮沢りえ）は“書けなくなった”元・有名作家だ。彼女を「師匠」と呼ぶ夫の昌平（オダギリジョー）と、ふたりで慎ましい暮らしを営んでいる。

洋子は他の職員による入所者への心ない扱いや暴力を目の当たりにするが、それを訴えても聞き入れてはもらえない。

そんな世の理不尽に誰よりも憤っているのは、さとくんだった。彼の中で増幅する正義感や使命感が、やがて怒りを伴う形で徐々に頭をもたげていく――。



5.おわりに・・・

◎ 「地域の見守り・支え合い」

◎ 「通報は全ての人を救う」

